



東村山・生活者ネットワークニュース

発行日/2022年11月10日 vol.144 発行/東村山・生活者ネットワーク 発行責任者/朝倉順子
〒189-0013 東村山市栄町2-19-3 森田ビル201 TEL&FAX 042-392-7677
hmy.net@hyper.ocn.ne.jp https://hmy.seikatsusha.me/



6/25
ハテナ!サロン

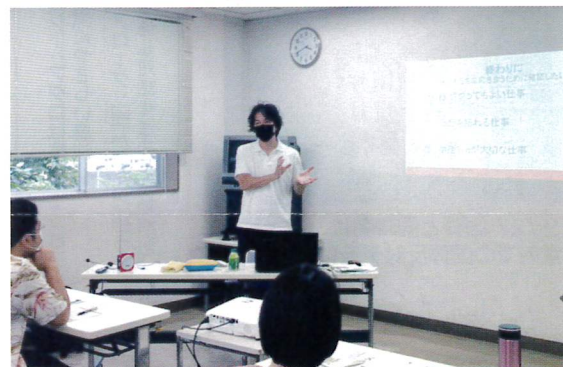
バリアフリー義務化で 暮らしはどうなるのか

電動車椅子ユーザー杉浦貢さんを
講師に、さくら通りをバリアチェック!



点字ブロックは、暗いと黒く見え、認識しにくい。そのため黄色が採用されている。アプリをインストールすれば視覚障害者用信号機の位置と、渡る時間延長も可能。

道路は新たな整備で段差もなだらかで視界を遮る電柱がなく走りやすい。また、学校もバリアフリー義務化対象になり、教育的な効果が期待できる。心のバリアフリー教育が進めば、社会や環境のあり方でバリアが作られていると、気づききっかけになる。このことを地域に広げていく。



8/20
ハテナ!サロン

インクルーシブな学校環境とは

公立小教員、宮澤弘道先生を講師に

道徳の教科化の狙いは自己責任論。義務を果たした上での権利や、障がい乗り越えるもの、との誤った知識を子どもに植え付けている。人として生きる権利をすべての人が有している。人権は弱い立場の人たちのためにこそある。学校は大きな木。一斉授業についていけない子を選別することで、枝分かれし木が細くなっている。子どもは実はしなやかなもの。地域には多種多様な子がいていい。その子らしくいられるためにはインクルーシブな教育環境に近づけて、お互いの違いを知る機会を増やすことが大切。

現場から学ぶ

「誰のいのちも大切に」

これってどうなっているの？

こうだったらいいのに!

みんなで変えられるかも!

「ハテナ!サロン」は
私たちの政策そのものです。

9/18
ハテナ!サロン

親子で学ぶ性教育

市内唯一の「助産院BLBホーム」
代表 川野元子さんを講師に

精子と卵子の出会いから誕生まで、いのちの営みを学び出産シーンも観ることができ貴重な体験となった。いのちの連鎖は誰ひとり欠けても自分は存在しない。全てのいのちが奇蹟である。若年妊娠の増加は身体的にも経済的にも、未熟ゆえに中絶を選択する現状がある。学校においては、互いを尊重し大切にする視点から、妊娠までの過程・避妊・子どもを持つ意味について、学べるようにしてほしいとの感想があった。自分の身体は自分のもの、誰のものでもない。性と生殖の問題を子どもの人権の視点で、2023年から開始する「生命の安全教育」に期待したい。

私たちと一緒にまちづくりしませんか?
白石えつ子

2022 ハテナ!サロン 第7回開催予定

日時: 12/10 (土) 14時~16時

会場: 「ままカフェ」(東村山市青葉町2-14-3)

定員: 20名 会場参加のみ 参加費: 300円

●「病児・病後児保育の仕組みを知っていますか?」

どこにあるの? 利用するには? どんな手続きがあるの? などいろいろお話しして頂きます。 問い合わせ・連絡先: 東村山・生活者ネットワーク

TEL・FAX 042-392-7677 Email hmy.net@hyper.ocn.ne.jp

※通信 141・142号の問い合わせアドレス表記に誤りがありましたことお詫言いたします。

東村山・生活者ネットワーク 市議会議員 白石えつ子 9月東村山市議会報告



障がいがあっても
なくとも
地域で共に暮らす

はじめの一歩
カレンダー



一般質問 いのちをつなぐタネと 農地を守るために

質問：10年後を見据えた、市民みんなで「農」につながり未来につづく都市農業。東村山市第3次農業振興計画の構想について。

回答：市の農業の現状と課題

●2000年から昨年までに市内の農地面積は後継者不足や相続の問題で約3割減少。

アプリ・ロカスタ開発で直売所情報の発信により援農意欲の向上を図り、地産地消の機運を高め複合的に従事者増加を図る計画。SDGsを意識し進めている。

●全国の有機農法農地は全体の0.6%に過ぎないが、本市では農家の20%が有機農法に取り組んでいる。

●「ゲノム編集技術」を使った食材については、表示がなくては消費者が選択できない。安全、命や健康を守る事に対して不透明な部分の改善が望ましい。ゲノム編集されたトマト苗の小学校や福祉施設への配布はないが、今後も適切に対応。●市長からは持続可能な都市農業につ

いて、従事者によるプロジェクトで第3次農業振興計画の将来像を定めるとの回答。

提案：農福連携で援農者を増やすことが、まちの活性化につながる。在来種を守ることで、農薬や化学肥料に頼らないアグロエコロジー¹に取り組み、ローカルフード条例を制定することが、農地保全になると考える。

ひきこもりに関する 実態調査の必要性について

質問：江戸川区の引きこもり実態調査結果をもとに本市での実態調査を。

回答：他市の先進事例を参考に、ひきこもり当事者や家族への調査を検討。いろいろな子どもたちの居場所「子ども放課後カフェ（西東京市）」視察も予定。

提案：ひきこもりは社会の問題と捉え、地援力を出し合い活かすために調査は必要。オープンダイアログ²等様々な手法、多職種連携で取り組むべき。

1アグロエコロジー：アグロは農業・エコロジーは生態学、地球環境にやさしい農法。
2オープンダイアログ：開かれた対話・フィラメントの繰り返し対話を進める精神療法。

いのちと暮らしを守る 令和3年(2021年)度決算 を認定

コロナ禍で現場調整に困難を伴う中、職員間の新たなコミュニケーションツール整備や、多様な市民へのデジタル社会対応策などの事務執行を評価。生活困窮者自立支援事業では、学習支援や受験生チャレンジ貸付支援の効果で、合格者数の飛躍的な伸びを評価。萩山公園整備事業は中長期的な視点に重きを置き、誰もが利用しやすいインクルーシブな公園の創出に期待。

課題に対し、誰もが公平にデジタル情報を取得するための合理的配慮と環境の整備を。デジタル化の弊害でもある、電磁波過敏症の方々への配慮と、保育園、幼稚園の民間基地局設置対策に注視を。こんにちは赤ちゃん事業は、「子育てするなら東村山」にふさわしいヘルパー派遣の拡充を早急に。コロナ禍で我慢し頑張っている子どもたちの権利の尊重と、個別最適な学びや居場所の提供を。

市内の自殺者は若年層に加え、高齢者にも広がっている。貧困、引きこもりなど主訴は違っても、学校や地域包括、基幹相談支援体制を最大限活用し、実態把握に努め防止策を講じることを求めた。

令和4年(2022年)補正予算 (第3号)可決! 高齢者等スマートフォン 無償貸与事業スタート

都の子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業「自分らしく暮らせるPoint」対象東京プロジェクトに関する事業「3か年事業が始まる。高齢者の情報格差をなくすため、スマホを所有しない65歳以上の高齢者等が対象。講習会で操作に慣れ、健康増進等に有効活用する。課題は5か月間貸与後に、返却又は買い取りの負担が発生するため、今後の動向に注視していく。

高校生等の医療費の助成に 関する条例案、可決!

都が2023年度から医療費助成の対象を高校生世代まで拡大するのを受け、本市も拡充することで、子どもの健やかな成長と子育て世帯支援に寄与するものと判断。所得制限はあるが医療費の自己負担は通院1回200円。2023年4月1日開始に向けシステム改修を行う。申請者に12月初旬に郵送、3月上旬までに医療証送付予定。都の助成が終わる2026年からは50%の財政負担が生じてくるが、自治体の財政事情による格差が生まれないよう議論の場を提案すると、市長答弁があった。少子化対策として国レベルの議論は必須である。



9/27 国葬と同時間に、国会議事堂前での国葬反対デモに参加



9/3「NAGASHIMA ~かくりの証言~」を鑑賞した人間回復の言葉が印象に残った